The James E. Hughes, Jr. FOUNDATION

## *考察：人間関係*

最近、人間関係について書かれた素晴らしい本を読みました。その本では、人間関係の複雑さを、私たち全員が常に心に留めておくべき、私が考える二つの継続的な考え方に分解していました。

第一に、ジョン・ロックが統治に関するその偉大な論文で示唆したように――もちろん、統治とは単に2人以上の人が共同で意思決定を行うことに他なりません――、あらゆる人間関係の成功の核心は、「自分が望む愛を得るためには、他者を助けるために自分の自由を、何も隠すことなく手放さなければならない」ということを理解することにあります。それは、他者に対して「永遠に、無条件に助ける」というこの極めて稀な約束をすることができる一方で、相手が自分を助けてくれるかどうかは分からない、ということを自覚することを意味します。 ただ、相手がそうしてくれることを願うしかない。他者を助けると約束する時、私は自分の存在がそれにかかっていることを理解しつつ、その判断が完全に間違っている可能性もあることを承知している。これは、自分の存在を賭けて未知の世界へ飛び込む行為だ。この極めて稀な状況で飛び込むことを躊躇すれば、私は本来あるべき自分になることを逃してしまうことになる。

第二に、私たちの宇宙では、三つの物理的原理が私たちの経験、とりわけ人間関係を支配している――核分裂、慣性、そして核融合だ。これら三つの力の視点を通して人間関係を捉えることは、役立つだろう。人間関係において、私が何を意味しているのか？
極めて単純化して言えば、核分裂は『ゴルディロックス』のお粥が熱すぎて、やがて熱の炎の中で私たちを吹き飛ばしてしまうようなものです。慣性は、お粥が冷たすぎて、やがて関係が極寒の中で死んでしまうようなものです。融合、つまりお粥の温度が「ちょうどいい」ときだけ、関係は花開き、持続し、アンチフラジャイル（逆強靭性）を帯びるのです！ 核融合では、1＋1＝3となります。太陽の奇跡とは、それが生命を可能にすることです。私の見解では、この同じ力が人間関係においても生命を生み出すのです。

ナマステ、
ジェイ

* この考察は、フェイサル・アリバイ著『United in Flow』（2023年）のヒューズ氏による序文を基に改編したものです。